



関西支部 8/3「第113回醱酵学懇話会」報告

2018年8月3日、本会関西支部主催の「第113回醱酵学懇話会」がアサヒビール株式会社吹田工場ゲストハウス（大阪府吹田市）にて開催されました。当日は、学生28名を含む72名の方にご参加いただきました。

講演会では、片倉啓雄支部長による挨拶の後、村中俊哉先生（大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻）より、「ゲノム編集の育種への応用と社会実装に向けて」と題した講演をいただきました。まず、農作物品種の育種の歴史やゲノム編集技術の原理について解説いただいた後、当該技術を活用したゲノム改変品種の作出戦略、先生のグループにより作出された毒性物質であるステロイドアルカロイド含量を低減したジャガイモの創成や、植物組織培養技術を見直して有用成分を生産させる技術開発などについて紹介いただきました。普段あまり耳にしないジャガイモの品種や種芋管理の実情などのお話も聞くことができました。ゲノム編集技術で創成したゲノム改変生物の社会受容性の展望についてもお話いただき、克服すべき課題についても知ることができました。次に、弘田辰彦氏（アサヒグループホールディングス株式会社コアテクノロジー研究所乳酸菌技術部）からは、「免疫調節作用を有するL-92乳酸菌の研究開発」と題した講演をいただきました。花粉症やアトピー性皮膚炎などのアレルギー症やインフルエンザに対する*Lactobacillus acidophilus* L-92の効果についてヒト臨床試験でのエビデンスをお示しいただきました。また、免疫賦活化が死菌体でも可能なこと、菌体が腸管上皮細胞内に取り込まれていることなど、免疫調節作用メカニズムの解明につながる研究成果を紹介いただきながら、企業における基礎研究の重要性についてもお話いただきました。

続いてビール工場を見学させていただきました。当日は夏休みの真っ只中で一般のお客さんも大勢来場されており、アテンダントの方にはツアーのスケジューリングや人数配分などで大変なご苦労をおかけしたことと思いますが、お蔭様で大変スムーズに見学を楽しむことができました。

ゲストハウスに戻った後、参加者の方々には、氷点下まで冷やされたビールを、サーバーから注がれたその場ですぐに味わっていただきました。異常気象とも言える猛暑が続いている中、極上のビールで至福の時を迎えることができたかと思います。その後、改めて片倉支部長の乾杯の発声のもと、懇親会を開始し、講師の先生方を交え、親睦を深めました。最後に藤山和仁副支部長による締めでお開きとさせていただきます。

今回、会場をご提供いただき、準備、運営で大変お世話になりました。アサヒビール（株）吹田工場の皆様に厚く御礼申し上げます。また、講師の先生方、ならびに参加者の皆様におかれましても、会を盛り上げていただきまして、心より感謝申し上げます。

関西支部では、今後も「醱酵学懇話会」を産官学、そして世代の垣根を超えた議論、交流の場として提供できるよう企画して参ります。次回「第114回醱酵学懇話会」は2019年1月29日（火）に月桂冠株式会社昭和蔵にて開催する予定です。皆様是非ご参加ください。

（関西支部企画幹事 原田 和生）



村中俊哉先生



弘田辰彦氏



工場見学の様子



懇親会風景